

令和4年度 第1回 湯沢市総合振興計画審議会 議事録

- 1 日 時 令和4年8月10日(水) 14:00~15:30
- 2 会 場 湯沢市役所本庁舎4階 会議室41
- 3 出席委員 (敬称略) 【出席13名】
和賀幸雄(湯沢商工会議所)、山脇幹(湯沢市観光物産協会)、
高橋章(湯沢市雄勝郡医師会)、中山孝子(湯沢市社会福祉協議会)、
村上聖子(湯沢市体育協会)、高橋好男(湯沢地区自治協議会)、
菊地正(湯沢7地区自治連絡協議会)、遠藤幸作(稲川地域自治連絡協議会)、
高嶋江美子(雄勝野づくり協議会)、
小野田敏昭(皆瀬地域自治組織地域づくり委員会)、
寺門敏子(NPO法人サポートセンター・ビーイング)、
築瀬栄美子(合同会社トマトクリエイション)、齋藤あゆみ(旅のわツアー)
- 【欠席3名】
佐藤正明(ゆざわ小町商工会)、佐々木房子(こまち農業協同組合)、
上野佑太(湯沢青年会議所)
- 4 案 件 (1) 第2次湯沢市総合振興計画の令和3年度実績について
(2) 湯沢市過疎地域持続的発展計画の令和3年度実績について



案件での発言要旨

案件（1）第2次湯沢市総合振興計画の令和3年度実績について

（事務局から資料について説明）

- | | |
|-----|---|
| ○委員 | 新型コロナの影響で第3章第3節①の観光入込客数が落ち込んでいるが、久しぶりに開催した七夕絵どうろうまつりには、他市町村から比較的若い世代の方が多く来場した。今後の方策しだいで、目標値130万人を早い段階で超えられると思う。 |
| ○委員 | 第3章第3節④に関して、秋ノ宮温泉郷観光案内等施設の看板がわかりづらい点や、施設内に掲示しているイベント等の開催日時が不明である点を改善すべきであると思う。 |
| ●市 | これまでも利用者の方から看板について同様の意見を頂いていますので、できることから速やかに取り組んでいきたいと考えています。 |
| ○委員 | 審議会の資料とともに、市民満足度調査の結果を送ってほしかった。資料の記載は行政側の自己評価なので、市民満足度調査と見比べができるとうい。 |
| ●市 | 一般市民の皆様の見解も承知いただいた上で審議会に臨んでいただくべきと思いますので、次回以降お送りします。また、今年度の市民満足度調査の結果を後日委員の皆様にお送りします。 |
| ○委員 | 湯沢市から日本酒を輸入し、台湾の日本食料理店などに卸している台湾の方がいる。現在の円安は輸出のチャンスであるので、ぜひ行政も一緒になって海外へ向けて取り組んでいければと思っている。 |

案件（2）湯沢市過疎地域持続的発展計画の令和3年度実績について

（事務局から資料について説明）

- | | |
|-----|---|
| ○委員 | 過疎地域持続的発展計画というのは、「発展して過疎地域ではなくしよう」という話であるのか。 |
| ●市 | 過疎地域の活力を引き上げるとするのが法律（※過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法）の趣旨であります。本市には財政的な問題もありますので、法律に基づく有利な財政措置を活用しながら市政を行っていききたい、ということで計画を策定しています。 |

- 委員 首都圏から移住してきた配偶者の話になるが、湯沢市には「いい病院が少ない」ということと、「街灯が少ないため夜に外出しづらい」ということを言われる。
- 委員 湯沢市への移住者の数は、近隣市町村と比べて多いのか少ないのか。また、湯沢市の移住者向けの取組について教えてほしい。
- 市 令和3年度の移住世帯は15世帯でした。近隣市町村と比べて多いのかにつきましては、人口比もあるため一概には言えませんが、湯沢市単独で見た場合には年々増加しています。移住者向けの取組につきましては、「移住コーディネーター」という専門職による伴走型の支援が、非常に効果があるのではないかと考えています。
- 委員 1-イ「市民満足度向上に関する目標」について、10歳代が「将来的に他のところに移りたい」の割合が多く、若い世代が湯沢市から出ていきたいと思っているように見える。また、湯沢市の政策は高齢者に手厚く、一番お金がかかる子育て世代への支援が薄いように感じる。この状況が続けば今後も湯沢市の人口は減少していくと思われるが、この点に対する具体的な取組はあるのか。
- 市 例えば、市役所内のトイレへ子供用おまるを設置したり、今年中に高校生までマル福（※福祉医療費助成制度）の対象を拡大したりと、様々なところで子育て支援に重点的に取り組んでいます。また、市外に出た学生への支援として、年4回分の仕送り送料の負担や、湯沢市に帰ってきた方の奨学金の返還助成などを実施しています。ただ、せっかく色々取り組んでも、その情報が対象者の皆様に十分に届いていないという指摘もありますので、しっかりと情報をお伝えしなければいけないとも思っています。
- 委員 市民満足度調査に「10歳代」とあるが、調査対象はどのようになっているか。
- 市 令和4年4月1日現在で15歳以上の市民の皆様の中から無作為に抽出しています。
- 委員 移住・定住の前に、湯沢市を知ってもらうことが大事だと思う。大名行列で殿様になってみたい人に来てもらうとか、七夕絵どうろうまつりで織姫と彦星を全国から募集して出会わせるとか、湯沢市の歴史あ

るお祭りなどを活用して市外から人を呼び込むうちに、湯沢市に住みたい人が出てくるかもしれない。

●市

大名行列には様々な歴史的経緯もありますので、市外の方をどんどん参加させるということは難しいかもしれません。ただ、寺門委員のお考えは他のイベント全てに共通することだと思しますので、しっかりと検討させていただきます。

○委員

市の発展に必要なことは、移住者と関係人口を増やすことだと思う。移住者の増加については、湯沢市には移住者向けの補助金がないので、最後の一押しする補助金やサービスが必要。また、子育て世代への支援のニーズを把握し、求めているものを充実化することも大事だと思う。関係人口の増加については、湯沢市に来たときの満足度を上げることが重要。例えば、和式トイレが多すぎるのが大きな問題なので、この点を解消すれば観光客の満足度が上がるのではないか。

●市

移住施策につきましては、様々なアイデアを出し、何が効果的かを検討していきたいと思えます。関係人口の創出につきましては、寺門委員からお話がありましたようなプチ体験なども入口にしながら、将来的な移住に繋がる関係人口を増やしていきたいと考えています。

○委員

やはり市の取組が対象者に伝わっていないことが結構ある。子育て支援については、内容はそれほど変わらないのに、横手市の方が手厚いイメージがあり、人口が流出しているように思われる。移住者を入れる前に、イメージの差を埋め、人口流出を防ぐ施策が必要だと思う。

○委員

最後に、市長から総括的なコメントをお願いします。

●市

秋田県の市の中で、湯沢市が一番児童の減少率が大きくなっています。昨年生まれた赤ちゃんは約 140 人でした。子供を産み育てる市にしていかなければならない、福祉部門だけでなく様々な分野で子供を 1 人でも多くするための施策を考えてほしい、ということを実日の幹部会議の場でもお話ししました。すぐに改善する問題ではないことも承知していますので、今後もこういった貴重な機会の皆様から意見を頂き、施策に反映していければと思います。